川口化学工業株式会社

証券コード 4361

QUARTER REPORT

第124期 中間報告書

2024年12月1日 ▶ 2025年5月31日

株主の皆さまへ

ファインケミカルの無限の可能性に向けて、今後も研究開発活動に力を注いでまいります。

代表取締役社長
山田 秀行

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第124期上半期（2024年12月１日から2025年５月31日まで）が終了いたしましたので、この間の事業概況をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境は、緩やかながらも世界経済は底堅い成長を維持しております。しかしながら、中国における不動産不況の長期化、ウクライナや中東などの地政学的混乱の深刻化、トランプ関税による景気下押し等、不確実性は高く相対的に下振れリスクが懸念されます。特にトランプ関税は、米国輸入品の価格高騰による内需の低下、企業業績悪化による各国の設備投資の抑制等、世界経済の下押しが想定されます。

日本経済は、消費者マインドが弱含んでいるものの、継続する雇用環境の改善、インバウンド需要の回復と個人消費に支えられ、緩やかながらも景気回復が継続されました。

当社グループに関係の深い自動車産業においては、国内生産はトランプ関税前の駆け込み需要もあり、緩やかな回復傾向が続きました。

このような環境の中、当社グループは2022年を起点とする５ヵ年中期経営計画（第121期「2022」から第125期「2026」まで）「ACCEL2026－革新を強力に推進し、成長を加速する」を実現するため、当期に生産能力の増強を目的に既設マルチプラントへの成長投資を実行、受託製造品の拡大、新製品開発の推進及び市場拡大への挑戦、策定した目標の実現に向け準備を整えました。また、経営資源の効率化とコストダウンを全社規模で取り組んだうえで、労働環境の改善を更に具現化し、企業価値を高める活動を積極的に行いました。

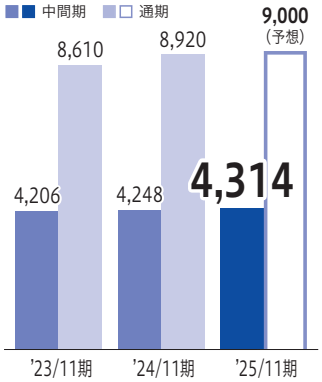
そのような状況の中、ゴム薬品の販売は、海外向けの需要は低迷しましたが、国内の自動車生産が緩やかながら回復し、売上は前年同期を上回りました。樹脂薬品については、国内の販売は低調に推移しましたが、海外向けの需要が回復し売上は前年同期を上回りました。中間体については、医薬中間体の需要が低調に推移し売上は前年同期を下回りました。その他薬品については、特殊添加剤の販売が伸長し売上は前年同期を上回りました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は43億14百万円（前年同期比1.5％増）、営業利益は１億98百万円（同1.7％減）、経常利益は１億83百万円（同13.5％減）、親会社株主に帰属する中間純利益は１億34百万円（同30.2％減）となりました。

連結財務データ

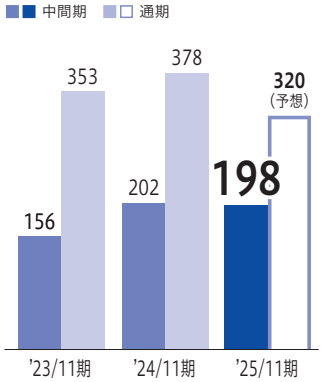
売上高（百万円）

前年同期比 1.5％増



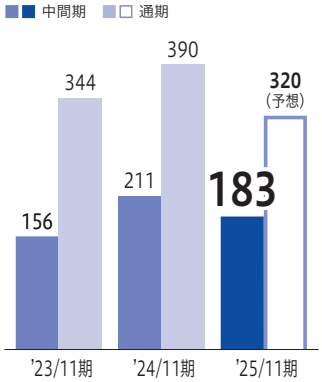
営業利益（百万円）

前年同期比 1.7％減



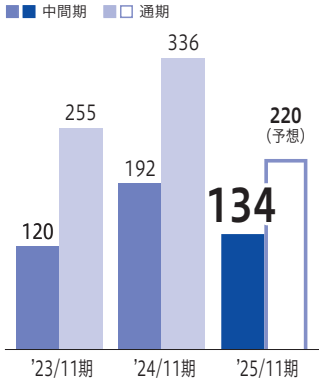
経常利益（百万円）

前年同期比 13.5％減



親会社株主に帰属する中間（当期）純利益（百万円）

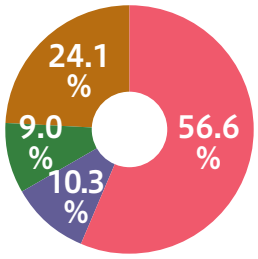
前年同期比 30.2％減



部門別の状況紹介

部門別売上高構成比

■ ゴム薬品
■ 樹脂薬品
■ 中間体
■ その他
（不動産賃貸事業部門 0.5% 19百万円含む）



環境配慮と技術革新を両立し、持続可能な社会の実現に挑戦しながら、継続的な収益基盤の確立を図るため、売上高経常利益率を重視し事業運営にあたっております。

化学工業薬品事業部門

ゴム薬品

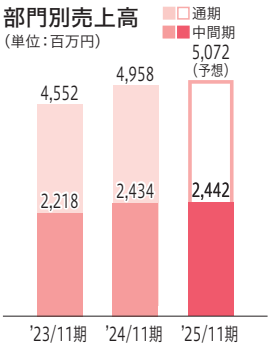
◎売上高24億42百万円（前年同期比0.4％増）

▶事業の紹介

タイヤやケーブルなど人々のライフラインを支えるゴム薬品、さらには、ヘルスケアに欠かす事が出来ない医療用ゴム製品への添加剤の提供を通じ人々の豊かな生活を守っています。

○当中間期のポイント

・国内の工業用ゴム製品は、国内自動車生産の回復により緩やかながら回復、医療用ゴム製品向けの需要も回復し売上は前年同期を上回る。タイヤ向けは、売上は前年同期を上回り、合成ゴム向けは、汎用ポリマーの需要の低迷により売上は前年同期並み。
・海外向け製品は、汎用品の市場が低調に推移、販売が減少し、医療用ゴム製品向けの販売が回復はしたものの、全体での売上は前年同期を下回る。



樹脂薬品

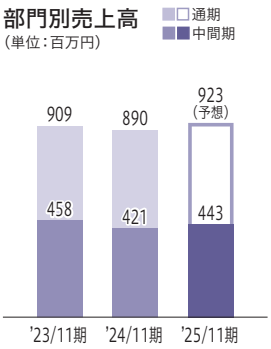
◎売上高4億43百万円（前年同期比5.1％増）

▶事業の紹介

世の中は省エネルギーに向けて進んでいる中、環境に配慮した高機能樹脂に置き換わりつつあり、そこに当社グループの樹脂薬品が使われています。また、当社が得意とする技術を生かし、ディスプレイなど成長著しい電子材料の添加剤を提供し、社会に貢献しております。

○当中間期のポイント

・アクリル酸・アクリル酸エステルの需要が回復、主要製品での海外安価品との競合により、特殊形状品の販売は増加したが汎用品の売上は減少。
・電子材料向けは、中国での市場回復により売上が増加。



中間体

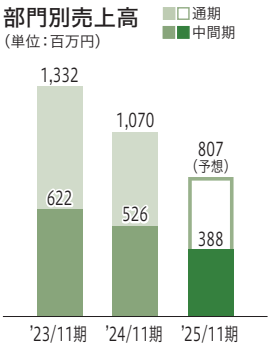
◎売上高3億88百万円（前年同期比26.2％減）

▶事業の紹介

農業や医療で必要とされる原料の提供を通じて人々の豊かな生活を支えています。

○当中間期のポイント

・医薬中間体は脱水縮合剤の需要低迷により国内向けは販売が減少。海外向けは販売が増加。
・界面活性剤中間体は一部回復傾向がありつつ売上は前年同期を下回る。



その他

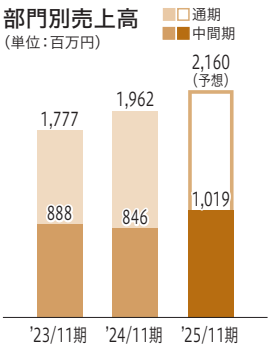
◎売上高10億19百万円（前年同期比20.5％増）

▶事業の紹介

環境用薬剤は家庭や企業などから出るゴミを焼却する際に発生する鉛や水銀を安全に捕集し、環境を守るお手伝いをしています。

○当中間期のポイント

・当社が得意とする合成技術を基盤とする特殊添加剤は、電子材料向け製品、特殊用途向け製品ともに販売が増加。
・環境用薬剤は、顧客での需要拡大に迅速に対応したことにより販売が増加。



財務データ

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当中間連結会計期間 2025年5月31日	前連結会計年度 2024年11月30日
資産の部		
流動資産	6,254	6,338
固定資産	2,509	2,192
資産合計	8,764	8,531
負債の部		
流動負債	4,835	4,887
固定負債	990	761
負債合計	5,825	5,649
純資産の部		
株主資本	2,878	2,816
その他の包括利益累計額	60	65
純資産合計	2,938	2,882
負債純資産合計	8,764	8,531

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	当中間連結会計期間 自2024年12月1日 至2025年5月31日	前中間連結会計期間 自2023年12月1日 至2024年5月31日
売上高	4,314	4,248
売上原価	3,512	3,470
売上総利益	801	778
販売費及び一般管理費	602	575
営業利益	198	202
営業外収益	7	19
営業外費用	23	9
経常利益	183	211
特別利益	–	42
特別損失	0	2
税金等調整前中間純利益	183	252
法人税、住民税及び事業税	41	40
法人税等調整額	7	18
中間純利益	134	192
親会社株主に帰属する中間純利益	134	192

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	当中間連結会計期間 自2024年12月1日至2025年5月31日	前中間連結会計期間 自2023年12月1日至2024年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	566	89
投資活動によるキャッシュ・フロー	△216	△96
財務活動によるキャッシュ・フロー	186	△100
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	10
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	528	△96
現金及び現金同等物の期首残高	744	1,043
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,273	946

TOPICS

■設備投資

中期経営計画「ACCEL2026」に掲げる「新製品開発の推進及び市場拡大への挑戦」の一環として、第123期中間報告書にてお知らせいたしましたが、生産能力の増強を目的に、生産設備の新設及び更新を予定通り実施し、2025年6月から稼働しております。

トリアジン類の生産能力は従来比２倍に増強。今後は、トリアジン類に加え、ファインケミカルプロダクト（製品群）への注力を更に強化してまいります。

■メディア掲載

TIME誌に代表取締役社長 山田 秀行 のインタビュー記事が掲載されました。（2025年7月7日発行）

⇐掲載記事はコチラから

会社概要 ／ 株式情報（2025年5月31日現在）

会社概要

設立	1937年１月11日
資本金	6億1千万円
従業員数	168名
営業品目	
ゴム薬品	加硫促進剤、加硫剤、老化防止剤、加工助剤、しゃく解剤
樹脂薬品	酸化防止剤、重合調整剤
中間体	染顔料中間体、医薬・農薬中間体
その他	機能性化学品、その他各種工業薬品
事業所	
本社	〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目８番４号（山田ビル）
本社事務所及び川口工場	〒332-0004 埼玉県川口市領家四丁目６番42号
大阪営業所	〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀一丁目３番７号 （肥後橋シミズビル）
主要な子会社	
開溪愛(上海)貿易有限公司	〒200336 上海市長寧区延安西路2201号 上海国際貿易中心1712室

役員

代表取締役社長	山田　秀行
常務取締役	萱野　高志
常務取締役	泉本　勝
取締役	安藤　博之
取締役	本間　義隆
社外取締役(常勤監査等委員)	中村　一哉
社外取締役(監査等委員)	石上　尚弘
社外取締役(監査等委員)	鈴木　俊介

株式の状況

発行可能株式総数	4,000,000株
発行済株式の総数	1,217,388株（自己株式2,612株を除く）
株主数	1,708名

大株主

株主名	持株数	持株比率
山田化成株式会社	201,480株	16.6%
正喜商事株式会社	121,000株	9.9%
いずも産業株式会社	44,200株	3.6%
山田史郎	28,200株	2.3%
今川和明	25,600株	2.1%
三井化学株式会社	25,000株	2.1%
山田善大	20,650株	1.7%
楽天証券株式会社	20,600株	1.7%
両角義信	20,000株	1.7%
平峯直	17,400株	1.4%

（注）持株比率は自己株式（2,612株）を控除して算定しております。

株主メモ

事業年度	12月１日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日	11月30日
定時株主総会	毎年２月
株主名簿管理人特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	電話　0120-232-711(通話料無料) 郵送先　〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 名古屋証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告記載URL https://www.kawachem.co.jp/ （ただし、電子公告による事が出来ない事故、その他やむを得ない事由が発生したときは、日本経済新聞に公告致します。）

（ご注意）
株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払致します。

当社ホームページのご案内

ホームページはこちら

https://www.kawachem.co.jp/

皆さまからのアクセスをお待ちしております!

川口化学工業株式会社

〒101-0047　東京都千代田区内神田二丁目８番４号 山田ビル
Tel 03-3254-8481（代表）　Fax 03-3254-8497

UD FONT
ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

VEGETABLE OIL INK